



キリンの首はどうして長いくびのなが

キリンの首くびは長ながくなかった

今いまから数千万年前すうせんまんねんまえ、地球ちきゅうに現あらわれたキリンの先祖せんぞにあたる動物どうぶつは、体からだも小ちいさく、首くびも今いまのように長ながくはなかつたようです。そのころは、森もりがたくさん広ひろがっていて、キリンも森もりの中で木きの葉はを食たべてくらしていました。少すこしでも首くびの長ながいキリンのほうが、木きの葉はが少すくないときは、生いきのびる割わり合あいが高たかかつたのでしょう。

草そうげん原ひろが広ひろがるようになると、キリンの先祖せんぞは、草そうげん原ひろでくらすようになりました。草そうげん原ひろでくらすようになると、森もりとちがって、かくれるところてきがなく、敵から体からだがまる見みえです。そのため、早はやくにげられるように、長ながい足あしとか、大おおきい体からだをもつようしんに進か化かしていきました。首くびが長ながいほうが、敵てきを早はやく見みつけることができたはずです。

首くびの長ながいキリンの子孫しそんが残のこった

草そうげん原ひろでくらすようになったころのキリンは、まだ、首くびの長ながいものや長ながくないものがいたようなです。しかし、水みずを飲のむとき、首くびの短みじかいキリンは、前まえ足を折あしり曲おげて体からだを大おおきくかまなければなりません。これでは、水みずを飲のんでいるさいちゅうに、敵てきがおそってきたら急いそいでにげだすことができません。けっきょく、首くびの短みじかいキリンはほろび、生いきていくのにつつごうのよい、首くびの長ながいキリンの子孫しそんだけが、今いまも残のこっているのです。

(監修・今泉 忠明)

